

特別寄稿

SDGsは生活の質の向上にむけたグローバル目標
SDGsの「基本」(第1回)

最近、よく見聞きするようになった「SDGs」という言葉。しかし、その内容について詳しくは分からないという人も多いのではないのでしょうか。そこで、SDGsの「基本」について、2回にわたり茨城大学人文社会科学部野田真里教授に分かりやすく説明していただきます。

はじめに

一昨年(2021年)のことでありますが、石岡市にお招きいただき、SDGsに関する職員研修と市民の皆様へのSDGs入門セミナーにて講演をさせていただきました。石岡市でのSDGsの熱心な取り組みに感銘を受けた次第です。この度、石岡の市民の皆様により広くSDGsについて解説する機会を頂戴いたしました。

2015年の国連総会で採択されたSDGsが、日本においても広く知られるようになったのは素晴らしいことですが、他方その本質を見失いがちなこともあるようです。そこで市民の皆様に変更してSDGsの「基本」について2回連載で分かりやすくご説明したいと

思います。



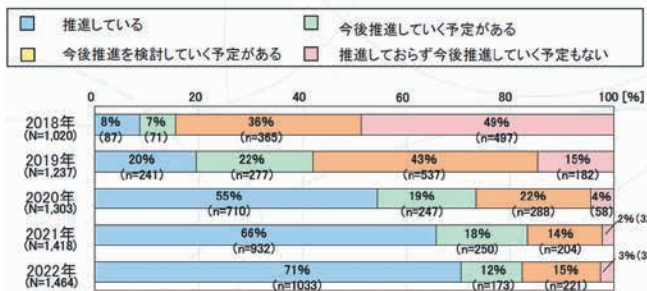
▲ 2021年12月に開催され、多くの方にご参加いただいたSDGs入門セミナーの様子

加速化する自治体のSDGs推進

上記の研修やセミナーの際にもお話ししましたが、全国の自治体ではSDGs推進に向けた取り組みが加速化しています(図1)。2018年度にSDGsを「推進している」と回答した自治体が

図1: 加速化する自治体のSDGs推進

調査項目: 地方創生SDGs達成に向けて取り組みを推進されていますか?



出典: 内閣府地方創生推進事務局「地方創生SDGs達成に向けた取組状況 SDGsに関する全国アンケート調査5年度比較」

8%であったのに対し、2022年度には71%と約9倍に増えていきます。また「今後推進していく予定がある」との回答を含めた場合、



■ 著者紹介: 野田真里 氏
茨城大学人文社会科学部教授
専門は国際開発学・SDGs行政、企業、NGO/NPOなどでの講演や研修、アドバイザー等の実績多数

2022年度には9割を超えており、いまや地方創生においてSDGs推進の取り組みは不可欠なものといえるでしょう。

ご案内の通り、石岡市においても市政の最上位計画である「石岡市総合計画基本構想」誰もが輝く未来へ共に創る石岡市」には、SDGsの視点が取り入れられています。また、同基本計画には、市の9つの政策目標に対してSDGsの17目標・169ターゲット(次回、ご説明します)との関連がわかりやすく示されています(236〜256頁)。以下、SDGs推進の取り組みへのご理解を深めていただく参考に、改めてSDGsの「基本」について、分かりやすくご説明します。

SDGsは国際開発の政策目標、持続可能なのは「開発」

第1の「基本」は、SDGsは国際開発の政策目標であり、ここで持続可能なのは「開発」である、ということ。これはSDGs II 持続可能な開発目標という点から自明なのですが、私がSDGsについて社会貢献活動をさせていただく際に「持続可能性(サステイナビリティ)」って、環境のことでしょいかね」といった声もしばしば聞かれますので、改めてご説明します。

まず、SDGsを採択した国連は、何を目指している国際機関でしょうか?これについては、国連憲章の前文にまとめられており、三大目標として「平和」「人権」そして「開発」(すべての人民の経済的及び社会的発達の促進)があげられています。では、そもそも開発とは何でしょうか?1997年に国連総会で採択された「開発のためのアジェンダ」では「開発とはすべての人々のより高い生活の質(QOL)の達成に向けた多角的な取り組みである」と定義されています。つまり、開

発が持続可能であるとは「すべての人々の生活の質の向上が継続すること」と言い換えることが出来るでしょう。一部の人々だけが利するよう営みや、環境を破壊し、生活の困難を招くような行為は定義上、開発に値しないということです。参考までですが、開発とは仏教に由来し「かいほつ」と読みます。おおよその意味としては、「生あるものすべてが持つ潜在能力が開花する」と理解されます。



SDGsは国連総会において全会一致で採択されたグローバル目標

第2の「基本」は、SDGsは2015年の国連総会において、全会一致で採択されたグローバル目標である、ということ。正確には、SDGsは「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の一部になりますが、これについては次回ご説明します。

現在、国連は世界193カ国が

加盟していますが、これらすべての国々が合意する、ということ自体、改めて考えてみると画期的なことであるといえます。

加盟国には日本のような先進国もありますが、多くは開発途上国で、国や地域によって抱える開発課題が異なるなど、利害が一致するとは限りません。また、今日、戦禍に苛まれている国々がありますが、こうした紛争の当事国(例えばウクライナもロシアも)もすべて合意した、ということ。私

たちは、地球規模課題やグローバルな危機に対して、すべての国や地域が様々な違いを乗り越えて、協働して取り組まなければならぬ時代に生きています。SDGsが国連全加盟国の賛同を得てスタートしたことは、世界が連帯して地球を持続可能にする、という世界の強い意思の表れであるともいえるでしょう。



親子で学ぼう！SDGsワークショップ

▶茨城大学の野田真里教授をお迎えし、SDGsについてわかりやすく学ぶ親子向けワークショップを開催します。参加型で対話を通じたワークショップで、楽しくSDGsを考え、行動してみませんか。



日時：2月19日(日) 午前10時～
(45分×2、休憩あり)

場所：本庁2階201・202会議室

対象：市内在住・在勤の親子など

定員：20組(子どもは小学生以上を対象)

申込方法：政策企画課へ電話またはメールで申し込み(お名前のみうかがいます)

申込期間：～2月17日(金) 午後5時

問合せ政策企画課 **Tel** 23-7277

✉kikaku@city.ishioka.lg.jp